

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900087	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲		
所在地	(243-0035)		
	神奈川県厚木市愛甲1丁目12番20号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 18名	
		ユニット数 2ユニット	
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『その人らしく、いつまでも』をモットーにしているホームです。閑静な住宅街に位置し、地域の方々の深い理解とご協力をいただきながら運営しております。認知症を理由に施設内だけの閉鎖的な空間での生活を強えず、積極的に地域行事への参加や外出の機会を設け、入居者は職員本位の日課で過ごす事無く、生活全般に入居者の思いを組み入れ、力を発揮していただき職員とご入居者の関係は、介護をする人と介護を受ける人ではなく、共に暮らす家族のような存在となるよう努めています。また職員はホームヘルパー2級以上の資格所持者で、介護福祉士資格所持者も7名在籍しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年 1月 14日	評価機関 評価決定日	平成28年5月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 <p>この事業所は小田急線愛甲石田駅から徒歩7分の住宅街にある。2階建て建物は陽当たりが良く清潔である。間取りは、居間・食堂・キッチンがユニット玄関近くにあり、職員が見守りやすい配置である。共有空間にはテレビやソファが置かれ、壁面には行事の飾り付けなどで季節感を演出している。</p>
【理念に沿った運営】 <p>事業所の運営方針を土台にして作成した「ほほえみの誓い」という独自の理念がある。利用者が家事などの役割を持ち満足感が得られるように支援している。ホーム長(管理者)は、地元の出身で、開設当初から勤務しており、自治会や近隣の方との交流を大切にしている。</p>
【医療連携と災害対策】 <p>医療連携体制加算を算定し、24時間オンコール体制がある。内科医と歯科医の往診があり、看護師が週1回健康管理に訪れている。訪問マッサージ(医療保険)を利用している方もいる。利用者が終末期を迎えた場合は、ターミナルケアを受け入れている。消火・避難訓練を実施し、食料と飲料水などを備蓄している。</p>
【地域交流と利用者の暮らしぶり】 <p>自治会に加入し、盆踊りやどんど焼きに利用者が参加し、事業所のニチイ祭りには、地域住民と利用者家族を100名ほど招いている。また、ボランティアとして中学校のプラスバンド演奏や養護学校の生徒が来訪している。利用者はレクリエーションを楽しみ寛いでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	海

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	山

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、毎日の夕方の申し送りの際に唱和を行い、共有し、業務に流され忘れず実践できるよう心掛けている	開設時に現ホーム長（管理者）と職員で話し合っ て作成した5ヶ条からなる、事業所の独自の理念「ほほえみの誓い」がある。ホームの運営方針の 思いが込められており、現在も継承し、朝の申し 送り時に社是（誠意、誇り、情熱）を、夕の申し 送り時に事業所の「ほほえみの誓い」を唱和し、 スタッフルームに掲示し意識付けしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域行事とホーム行事への相互参加等日常的な交流をしている	宮前自治会に加入し、盆踊りやどんど焼きに利用者が参加し、地域の防災訓練には職員が参加している。事業所のニチイ祭りには、地域住民と利用者家族を100名ほど招いている。また、ボランティアとして中学校のブラスバンド演奏や養護学校の生徒が来訪している。地域行事の際は介護相談コーナーを設け、介護の技術指導に取り組んでいる。今後は、民生委員・児童委員の協力を得て、幼稚園や小学校の子供たちとの交流を図って行く意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度はホーム行事の際に、介護相談を行った		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告に留まらず、勉強会を兼ねたりと工夫をしているが参加者の拡大には繋がっていない	運営推進会議は概ね2ヶ月毎に開催し、参加者は利用者家族、自治会長、地域包括支援センター職員、地域福祉推進委員、事業所職員である。出席率を上げるため開催日時を調整しているが、全員が揃うことは少ない。会議では運営報告や外部評価結果を報告し、防災や地域交流などの意見交換をしている。	会議には、より多くの方の出席が望まれます。防災訓練など事業所行事に併せて開催するなどの調整により、活性化することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政サイドも親身な対応をしてきており、相談や、情報共有ができています	厚木市介護保険課給付係担当者とは、主治医、協力医の追加相談や認定更新申請の代行手続きなどを行っている。地域包括支援センターが主催する音楽療法や認知症サポーターの養成研修に協力している。厚木介護保険事業所連絡協議会では、市への提言を行い、意見交換や研修に参加している。協力医や地域の医療機関が主催する医学研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施しているが、その他施錠を含めた身体拘束の実施は全職員共通の認識を持ち行っていない	身体拘束廃止と高齢者虐待防止研修を年1回行い、職員に周知している。特に本年度はスピーチロックの学習に力を入れている。不適切な言葉使いは、その場で注意している。主玄関やユニット玄関は、職員の見守りで安全を確保し、夜間を除いて開錠している。共用型デイサービス利用者の送迎時などで、ホーム内の職員が少ない時は、万一に備え補助的にドアセンサーを使用して安全を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習があり、最低年に1回の振り返りが行えている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に成年後見人制度の案内をし、導入ケースが複数ある。制度についての研修は管理者が中心となるが参加をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、十分な説明とご理解を得るよう努めている。理解、同意を頂いた上で契約を取り交わしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、年1回のアンケート実施を行っているが、家族会や、面会の際などでもホーム、職員への要望、ご意見を伺うよう努めている	玄関に意見箱を設置し、家族の来訪時や家族会、運営推進会議などで意見を聞く機会を設けて、運営に反映させている。法人でもコールセンターを開設したり、年1回「アンケート調査」を実施している。改善事例は、トイレでのスリッパ使用などである。	家族への「ホームたより」を再開して、行事や介護状況などを報告することを期待します。特に、来訪の少ない家族には、きめ細かい状況報告を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとで行う業務ミーティング等で職員の意見、提案を受けている	毎月のホーム全体会議やユニット会議の中で要望や意見を聞き、運営に反映させている。また、管理者は、いつでも意見・要望が言える雰囲気づくりに努めている。管理者が評価表を用いて面談を行い、職員の介護技術や後進の育成指導、勤務態度、啓発活動への参加などについて評定している。法人は職員の声を直接聴くコールセンターを設けている。キャリアアップ制度があり、資格取得に応じて時給に反映され、モチベーションアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者においてもキャリアアップ制度等が整っており、向上心を持ち業務に携われる環境がある		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、雇用形態や職種ごとの社内研修を受けている。外部研修参加は推進しているが、一部職員のみが参加できている現状		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木介護事業所連絡会への加入をしており、他事業所との交流機会が持っている。見学などの相互訪問もあり、質の向上に繋がるよう努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人やご家族の困り事、心配事、求めている事を、誠意を持ち伺うよう努めている。スタッフも特に入居初期においては傾聴を重んじている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における聞き取りは、充分時間をかけ、より良い関係作り努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人と介護される人の関係ではなく、共に暮らし、お互いに支えあいながら生活をする家族的な存在となるよう心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大事な一員として共に考えていけるよう、心掛けている。来訪時には近況報告や面談を行い、ご希望や、ご意見を頂いたり、家族と過ごす時間の尊重をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方には、手紙や電話での通信支援を行っている。家族以外でも馴染みの関係の方の面会があったり、共に外出されている方もいる	家族や入居前の知人が来訪し、共に外出される方もいる。利用者の同級生が訪ねて来た折には、湯茶の接待をしている。利用者が高齢になり知人の来訪が減じたので、ユニット間の合同行事や家族と交流する機会を設けている。正月の外泊や墓参り、理美容院、買い物ツアーなどでは、家族の協力を得て継続支援している。クリスマス会の家族への招待状、年賀状の作成、電話の取次ぎなどは職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の見守りをし、孤独にならないよう話題提供、レク実施等を行っているが、一人で過ごす時間を好む方もあり、自室で長時間過ごす方もいる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、その後家族との交流が続いておりホーム行事などへの来訪もある。相談などがあった場合には適宜応じている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での関心度合いや積極性などからの判断や、言語的な訴えでの聞き取り、過去の生活歴や家族からの情報提供で希望要望を把握するよう努めている	入居希望者には見学を勧めている。入居時のアセスメントで思いや意向を聞き取り、職員間で共有し介護計画に反映させている。3ヶ月毎に希望・意向の変化を再確認している。意思の疎通が困難な方には、家族に伺ったり、日常の生活場面で表情、態度で思いや意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前状況は、家族やケアマネ等から情報収集をされており、生活歴や嗜好、性格などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々々の心身状態や意欲、能力を共有しその人らしく暮らせるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行っている。本人希望要望は日常の会話や生活の中から汲み取るなどの工夫をし、必要に応じて医師や看護師等の助言アドバイスを頂いている	入居時のアセスメントから暫定プランを作成し、1ヶ月後に見直している。経過は、介護計画と連係した日常生活支援シートに記録している。モニタリングと介護計画の見直しは3ヶ月毎に評価を行い、医師・看護師の意見を取り入れて作成している。心身の状態に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に則った記録がうまくできていなかった点などから、若干の、書式の変更実施をした。更に手を加え、介護者の記録業務の効率化を目指している。また情報共有を個別記録、全体申し送りなどで行い、見直しの際に活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険がない限りなるべく叶えられる様努力をしている。ご家族からの要望や、状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事参加やホーム行事への地域住民参加、ボランティア来訪などで心身ともに豊かな暮らしを得られるよう勤めている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を尊重し主治医決定をしてもらっており、入居時にはホーム提携医の紹介を行っている 提携医に対しての受診支援は積極的に行っている	入居前からのかかりつけ医に受診している方が2名、協力医の往診の方は15名である。内科医の往診は月1回、歯科医は毎週往診している。皮膚科、眼科等は外来診療であるが、職員が付き添っている。医療連携体制加算を算定して24時間オンコール体制があり、看護師が週1回健康管理に訪れている。訪問マッサージ（医療保険）を利用している方もいる。認知症の対応については、協力医の精神科医に相談している。利用者全員がインフルエンザの予防接種を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、提携医療機関看護師とは情報の共有、相談等を日常的に行っており、24時間体制で連絡が可能		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医には入院加療が必要な場合も早期退院を要望し理解協力を得ている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対する指針の説明と同意を頂いており、入居段階での家族の思い、考え方を聞き取る努力をしている。事業所としては重度化における対応に関わる指針をスタッフで周知しており、退去者があった後のミーティング等で理解を深めるよう動機付けている	「重度化した場合の対応指針」があり、利用者・家族には入居時に説明し、同意を得ている。利用者が終末期を迎えた場合は、本人・家族の意向に沿いチームケアによる看取り、または、入院支援を行う方針である。平成27年1月に初めて看取りを行った。協力医と看取り支援のできる医療機関を追加し対応した。看取り後に全職員参加の「振り返りカンファレンス」を開催し、看護師と薬剤師による看取り研修を実施した。今後も研修を継続し看取り体制を確立してゆく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は全職員が普通救命講習の再受講を行った		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難、指定避難場所までの経路を全職員把握している。自治会の防災訓練参加も行き、災害時の協力について自治会の理解も得られている	年に2回、消火・避難訓練（夏季は消防署立ち合い、夜間想定訓練。冬季は自主訓練）を実施している。車いすの方を2階から下ろし、一時避難場所では地域住民の見守りの協力があつた。災害備蓄は「非常食発注書」で管理し、個別防災バッグもある。食料の備蓄は職員分も含め3日分あるが、飲料水は補充が必要である。自治会の防災訓練には職員が参加している。	災害に備え、飲料水の不足分を補充することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの慣れ親しんだ話し方、呼び方に合わせているが、馴れ合いになったり、言葉使いが荒くなったり、自尊心を傷つける可能性があることも含め十分な配慮を要する	人格の尊重については事業所理念に掲げ、人生の大先輩である利用者を尊敬し、親しい環境づくりの中においても馴れ合いを慎み、スピーチロック、傾聴などについて研修をしている。職員は入職時研修で個人情報保護を学び、業務日誌等の記録の氏名は、イニシャルで記入しプライバシーを確保している。個人情報に係る重要書類は、スタッフルームの書棚に施錠保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の好みや飲食物、過ごし方など、希望を聞くようにしており、希望を出せない場合には選択肢を少なくし自己決定の場面を意識的に提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った1日を自身のペースで過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の活用支援、外出やイベント時のおしゃれを楽しむ支援をしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	参加意欲や能力に応じたお手伝いをお願いし、共に食事作りや片付けを行っている	食材は職員が調達し、ユニット毎に職員が献立を決めて調理し、個々の食事形態に合わせて提供している。行事食は、敬老の日の弁当、誕生会の赤飯、夏祭りの流しそーめん、正月のおせちなどを提供し、出前寿司や鰻などをとることもある。外食は、希望者を募り個別支援で行っている。利用者は、配膳、下膳などの役割を持って手伝っている。介助の必要な利用者が増えたので、職員は食事介助に専念している。	栄養バランスについては、管理栄養士などに確認してもらうことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態、習慣、好みに合わせた形での食事提供をし、食事と水分摂取量は記録をし、1日の必要量を摂取できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量、習慣に合わせ個別に支援をし 訪問歯科での義歯調整や口腔内チェックも実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のタイミングや表情、行動を見て誘導をし、パッドやリハパンの利用減に努めている。排泄支援時は、失禁があっても1度はトイレに着座をし、残尿など無いようスッキリとして頂き、トイレでの排泄習慣が取り戻せるよう支援を行っている	排泄介助が必要な方が2/3ほどで、排泄チェック表や表情・しぐさを見てトイレへ誘導している。できるだけ便座に腰かけてもらう時間を設けて、排泄習慣が取り戻せるよう支援している。パッド類の使用を徐々に減らしてゆきながら、利用者に合わせてトイレ誘導を行うことで、自立に向かってゆく方が増えている。トイレは、各ユニットに3ヶ所（内、車いす対応は2ヶ所）設置され、肘掛、手洗い、ペーパータオルを備えている。リビングに近いトイレと浴室は中扉で接しており、羞恥心に配慮した失禁対応ができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、十分な水分摂取の促しと、量の記録を行い、適度な運動を日常生活に取り入れている、便秘傾向の強い方には医師と相談の上、下剤使用者もいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご入居者の入浴習慣や体調、身体能力に合わせ臨機応変な入浴の支援を行っているが、重度介助の方の入浴支援は計画的に実施をしている	週に2回入浴している。希望があれば随時対応している。夏季は、日に2回のシャワー浴をされる方がいる。浴槽の湯は、その都度交換している。1階の浴室ではシャワー座浴ができる。菖蒲湯や柚子湯で季節感を楽しんでもらっている。浴室、脱衣所にはヒートショック防止対策としてエアコンが設置されている。入浴を好まない方には、相性の良い職員に変えたり、声掛け誘導の工夫をしている。同性介助は要望があれば対応する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労度合いや、夜間の睡眠状態に応じて午睡の促しをする事もある。自室に限らずソファや和室等、くつろげる場所で過ごしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については全職員が把握できるようファイルに綴じ管理をしている。服薬時は2重チェックを実施。処方の変更や追加薬があった場合には特に変化に留意するよう周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を持った生活をしてもらえるよう働きかけ、ホーム全体、ユニットごと、個別等、年間を通じ楽しみごとのある生活を送れるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物は日常的に実施し季節ごとの外出や地域行事参加を実施し、家族との外出などは自由に行っていただいている	活動的な利用者が多く、天気の良い日には、近隣の公園や遊歩道、熊野神社、寺院に出掛けている。車いすの方には職員が付き添っている。テラスで日向ぼっこをしたり、花壇の手入れをしている。季節の外出行事には車で初詣、花見、平塚七夕祭り、市民健康祭りがあり、外食、買い物にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、基本的には金銭所持はないが、本人や家族希望がある場合、家族の理解と協力を得て小額所持をしている方もいる。事業所として預かっているこづかい金もある為、買いたいものがある場合には支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望、力量に応じ、手紙、電話での家族との交流支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等の明示を行っている。今日の月日がわかるカレンダーをリビングに作り、生活感、季節感が過度にならないよう装飾等を行っている	居間・食堂・キッチンがユニット玄関、スタッフルームに接しており、職員が見守りやすく配置されている。居間・食堂は陽当たりが良く清潔で、テレビやソファが置かれている。居間に接して畳スペースがあり、昼寝をされる方がいる。壁面には利用者が作成した貼り絵、習字、行事の飾り付けなどで季節感を演出している。法人はアニマルセラピーを推奨しており、事業所でも主玄関でセラピー犬を飼育して、利用者の癒しとなっている。利用者はレクリエーションを楽しみ寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるソファセット、ウッドデッキ、和室がある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛用の家具やベッド、大切にしている思い出の品などを入居時に持参いただいている。又趣味のものや、家族の思い出の品なども、お持ち込み頂き安心して過ごせるようにしている	居室にはエアコン、照明器具、防災カーテン、クローゼットが備え付けられている。自宅からベッド、テーブル、イス、テレビ、整理タンス、家族の写真などを持ち込んでいる。これまでの生活習慣を活かし、床マットに布団を敷いている方もいる。室内は整理整頓され清潔であり、利用者は居心地よく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普通に生活するというスタンスの中で、出来る事には安全にトライできるよう見守っている。過剰な介護を控え、見守るスタンスを大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、毎日の夕方の申し送りの際に唱和を行い、共有し、業務に流され忘れず実践できるよう心掛けている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域行事とホーム行事への相互参加等日常的な交流をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度はホーム行事の際に、介護相談を行った		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告に留まらず、勉強会を兼ねたりと工夫をしているが参加者の拡大には繋がっていない		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政サイドも親身な対応をしてくれており、相談や、情報共有ができています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施しているが、その他施錠を含めた身体拘束の実施は全職員共通の認識を持ち行っていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習があり、最低年に1回の振り返りが行えている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に成年後見人制度の案内をし、導入ケースが複数ある。制度についての研修は管理者が中心となるが参加をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、十分な説明とご理解を得るよう努めている。理解、同意を頂いた上で契約を取り交わしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、年1回のアンケート実施を行っているが、家族会や、面会の際などでもホーム、職員への要望、ご意見を伺うよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとで行う業務ミーティング等で職員の意見、提案を受けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者においてもキャリアアップ制度等が整っており、向上心を持ち業務に携われる環境がある		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、雇用形態や職種ごとの社内研修を受けている。外部研修参加は推進しているが、一部職員のみが参加できている現状		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木介護事業所連絡会への加入をしており、他事業所との交流機会が持っている。見学などの相互訪問もあり、質の向上に繋がるよう努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人やご家族の困り事、心配事、求めている事を、誠意を持ち伺うよう努めている。スタッフも特に入居初期においては傾聴を重んじている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における聞き取りは、充分時間をかけ、より良い関係作り努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人と介護される人の関係ではなく、共に暮らし、お互いに支えあいながら生活をする家族的な存在となるよう心がけている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大事な一員として共に考えていけるよう、心掛けている。来訪時には近況報告や面談を行い、ご希望や、ご意見を頂いたり、家族と過ごす時間の尊重をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	複数のお客様へは手紙や、電話での通信支援を行い、身元保証人様より、特段のお申し出が無い限り、訪ねてきた方との面談をしてもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニティを把握するよう努め、入居者同士もお互い様と思える雰囲気を作り、相互の関係を見守っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、その後家族との交流が続いておりホーム行事などへの来訪もある。相談などがあつた場合には適宜応じている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自ら希望等が話せる方には、そのためにどうしたらいいか等の案を出し、言語でうまく表現できない方の場合、本人本位に検討をしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前状況は、家族やケアマネ等から情報収集をしており、生活歴や嗜好、性格などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々々の心身状態や意欲、能力を共有しその人らしく暮らせるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っている。本人希望要望は日常の会話や生活の中から汲み取るなどの工夫をし、必要に応じ医師や看護師等の助言アドバイスを頂いている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に則った記録がうまくできていなかった点などから、若干の、書式の変更実施をした。更に手を加え、介護者の記録業務の効率化を目指している。また情報共有を個別記録、全体申し送りなどで行い、見直しの際に活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険がない限りなるべく叶えられる様努力をしている。ご家族からの要望や、状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事参加やホーム行事への地域住民参加、ボランティア来訪などで心身ともに豊かな暮らしを得られるよう勤めている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を尊重し主治医決定をしてもらっており、入居時にはホーム提携医等の紹介を行っている 提携医に対しての受診支援は積極的に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、提携医療機関看護師とは情報の共有、相談等を日常的に行っており、24時間体制で連絡が可能		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医には入院加療が必要な場合も早期退院を要望し理解協力を得ている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対する指針の説明と同意を頂いており、入居段階での家族の思い、考え方を聞き取る努力をしている。事業所としては重度化における対応に関わる指針をスタッフで周知しており、退去者があった後のミーティング等で理解を深めるよう動機付けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は全職員が普通救命講習の再受講を行った		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難、指定避難場所までの経路を全職員把握している。自治会の防災訓練参加も行い、災害時の協力について自治会の理解も得られている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの慣れ親しんだ話し方、呼び方に合わせているが、馴れ合いになったり、言葉使いが荒くなったり、自尊心を傷つける可能性があることも含め十分な配慮を要する		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類選択や家事参加、外出時の準備や理美容の際、なるべく本人に希望を伝えていただいております。希望要望の少ない方は本人本意の視点で良いと思われる事を決定していくようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った1日を自身のペースで過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に則り理美容の支援を行い、外出やイベント時は、女性はメイクをしたりマニキュアなどで普段以上に身だしなみを整えるという事でその人らしく、女性らしい楽しみを支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に入居者と共に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態、習慣、好みに合わせた形での食事提供をし、食事と水分摂取量は記録をし、1日の必要量を摂取できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量、習慣に合わせて個別に支援をし 訪問歯科での義歯の作成や、補修、調整また口腔内チェックも実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方も複数いるが、排泄パターンや習慣を把握し、パットやパンツの利用者は常に不快が無い状態でいられるよう支援を心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、十分な水分摂取の促しと、量の記録を行っている。日常的に適度な運動、散歩を生活に取り入れている。各種予防策を試しても便秘が解消されない方は下剤服用を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が2名以上いる時間帯には個々に応じた入浴の対応をしている (7:00~20:00)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は睡眠や入眠障害に対しては医師への相談をするが生活習慣での遅い入眠や起床は生活上支障がなければ個々の習慣や気持ちを尊重をしている。昼寝等も体力や習慣を重んじている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については全職員が把握できるようファイルに綴じ管理をしている。服薬時は2重チェックを実施。処方の変更や追加薬があった場合には特に変化に留意するよう周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を持った生活をしてもらえるよう働きかけ、ホーム全体、ユニットごと、個別等、年間を通じ楽しみごとのある生活を送れるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物は日常的に実施しており、活動的な方も多く、1日に複数回の外出支援もある。季節ごとには旅行等も実施している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、基本的には金銭所持はないが、本人や家族希望がある場合、家族の理解と協力を得て小額所持をしている方もいる。事業所として預かっているこづかい金もある為、買いたいものがある場合には支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合、手紙、電話での家族との交流支援を行っている、毎年手書きの年賀状を家族に出している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、浴室、トイレ等の明示を行い、季節の間違えが無いよう季節感を取り入れた空間演出を過度にならないよう実施している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるソファセット、和室がある 利用者同士でくつろぐ場合には相互の居室訪問も多い		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛用の家具やベッド、大切にしている思い出の品などを入居時に持参いただいている。又趣味のものや、家族の思い出の品なども、お持ち込み頂き安心して過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、出来そうなこと、わかること、わかりそうなことに対して、過剰な手出しや声かけをせず、自立した生活が送れるように努めている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニ子イケアセンター-厚木愛甲

作成日 28.6.27.

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	来訪の少ない家族への近況報告などの機会が少ない。	ホームだよりの再発行	まずは、季刊にて発行を行い、発行回数を毎月に行えるよう努め、内容も充実させていきたい	H28～H29年度 H29年度中に月間発行。
2	13	災害対策備蓄品(水)が不足。	備蓄飲料水を増やす。	社内規定数の備蓄は、ある為、日常の食料品管理の中に飲料水の保管を含める。	H28.7～ 開始
3	3	運営推進会議の定例会も目指す。	参加者増え。	本年度は、地域内の交番の方にもメンバー加入を頂き、情報交換を行っていく。	H28年度～ 開始
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

